



「伝えたい木の文化、残したい美しい森」  
（美しい森林づくり推進国民運動）

# 京都銀行の 美しい森林づくり

京都銀行は、京都モデルフォレスト協会の中核として、森林と企業を繋ぐ役割を担っており、京都府下で現在、二四企業・団体が参画する中、森林の再生を目指した森林づくり活動を展開しています。

京都銀行の森林づくりに向けてのポリシーは「森の健全化を図る、そして、森を守る取組を行う方々の応援団となる」ことで、この応援団という考え方は、「日本の森を守る地方銀行有志の会」の立ち上げへとつながりました。

「将来的には森林整備のための基金の創設を目指したい」という希望を抱く京都銀行頭取の柏原康夫氏にお話を伺い、京都銀行の美しい森林づくりに向けた取組をご紹介します。

めてきました。

京都銀行では、京都モデルフォレスト協会の立ち上げの際、柏原頭取が協会の初代理事長に就任し、京都モデルフォレストの森林づくり基金の創設と活用、緑の募金の推進、京都モデルフォレスト運動推進のための普及啓発などの活動を進

「京都モデルフォレスト協会では、企業の協力を得て、荒廃した森林を再生する取組を行っています。現在、二四の企業・団体が森林づくり活動に関わる協定を締結し、京都府下の二五箇所において、一〇年を一つの

期間として森林整備に取り組んでいきます」と語る柏原頭取は、京都銀行の独自の取組についても説明します。

「阪神・淡路大震災の教訓も踏まえながら都市部における緑化帯の重要性を認識し、嵐山周辺での五十一



京都モデルフォレスト協会による森林の再生活動

種類、四千本の植樹を通じて府下の防災環境保全モデルとしての森づくりを行う『京銀ふるさとの森づくり』を実施したほか、学校や公共施設等の周辺を緑化帯で囲む防災環境保全の呼びかけを積極的に展開しています。また、京都銀行内で使用



柏原康夫頭取

する用紙類の購入代金と、京都銀行が販売する『京銀エコローン』などの環境配慮型融資商品の取扱額に一定の乗率を掛けた金額を、京都モデルフォレスト協会の基金に寄付しており、本年は前年度実績分として三百四十万円を同協会に寄付しました。用紙購入に伴う寄付は行員の環境意識の向上を目指した『行員参加型』として、環境配慮型融資商品の取扱いに伴う寄付は『お客様参加型』の寄付としてそれぞれ実施しています」

森林整備を応援しようとの取組は他の地方銀行にも波及し、「日本の森を守る地方銀行有志の会」が昨年七月に発足しました。柏原頭取は「地域ボランティアへの支援を積極的に進めている山陰合同銀行の古瀬頭取をはじめ、各行の方々に相談したところ、たちまち八行が参加の意向を

表明しました。その後、全国の地方銀行へも働きかけたところ、地方銀行六四行の全てが参加することとなり、北は北海道から南は沖縄まで、全国的な広がりを得ることができました。地方銀行は一番地元に着目しており、その全ての地方銀行が結集したということで、各地域の特性を生かした森林整備を推進する体制が整ったといえます。今後は、各地方銀行が集めた情報やノウハウなどを

このネットワークを通じて各行の活動に反映させ、森づくりの活動をさらに活性化させて行きたいと考えています」と会の活動に強い期待を寄せています。この日本の森を守る地方銀行有志の会は本年七月に第一回通常総会を行い、一二月には国立京都国際会館で「日本の森を守る京都サミット（仮称）」と題したイベントを開催します。

柏原頭取は、日本の林業に対し



京銀ふるさとの森づくり



植栽後1年経過した現場

て、「林道・作業道の整備と林業の機械化、作業の集約化を進めていけば、林業は必ず業として成り立つものです。特に資源的な制約が顕在化している現状では、旧来のような輸入材の伸張は予測できません。一〇年先を見越したビジョンを描くことが今の林業界には必要です。林業が健全になれば森も健全になる。林業が再生することで銀行も本来の業務の拡充が図られます。我々地方銀行は、そのための応援団です」と述べ、「将来的には、森林整備のための基金づくりといったことも、『日本の森を守る地方銀行有志の会』の目標として個人的には考えています」と柏原頭取は今後に向けた抱負を語ります。



緑地帯に囲まれた建物